

留守家庭児童会室等での三季休業期昼食サービス試行実施結果について

1. 目的

これまでから三季休業期の昼食サービスについては、留守家庭児童会室等で提供して欲しいという要望を保護者から受けていました。しかしながら、三季休業期の昼食サービスを導入するにあたっては、お弁当事業者の選定や、注文の集約、集金方法など様々な課題を有していたことから、これらの課題を解決するため、公民連携プラットフォームの仕組みを利用して、事業の実施手法や継続可能性を検証するため、夏季休業期間に昼食サービスを試行実施しました。

2. 試行実施期間

令和6年7月24日（水）から令和6年8月26日（月）まで

3. 試行実施した施設・対象者

お弁当提供事業者が対応可能な施設で、利用人数やニーズの高さを考慮して各地域ブロック（中部、南部、東部、北部）から、計11校を選定。留守家庭児童会室と放課後オープンスクエア（総合型放課後事業）の利用児童を対象。

中部	山田	交北	山田東
南部	開成	香里	枚方第二
東部	菅原東	藤阪	
北部	牧野	樟葉	船橋

4. 事業の概要

(1) 利用方法（保護者・児童）

- ①スマートフォン等にアプリをダウンロード、学校名、クラス（留守家庭児童会室又は放課後オープンスクエア）、氏名を登録
- ②メニューを確認し、利用日を選んで注文
- ③アプリ内で代金決済
- ④留守家庭児童会室にて職員からお弁当を受け取り

(2) 1食あたりの値段

550円～570円

5. 利用状況

(1) 総合型放課後事業に参加した児童のうち昼食サービスを利用した児童の割合

	留守家庭児童会室	放課後オープン スクエア	全体
参加実人数 (A)	1,176 人	1,091 人	2,267 人
昼食サービス利用者実人数 (B)	417 人	146 人	563 人
利用率(B)/(A)	35.5%	13.4%	24.8%

(2) 1日の昼食サービス平均利用率

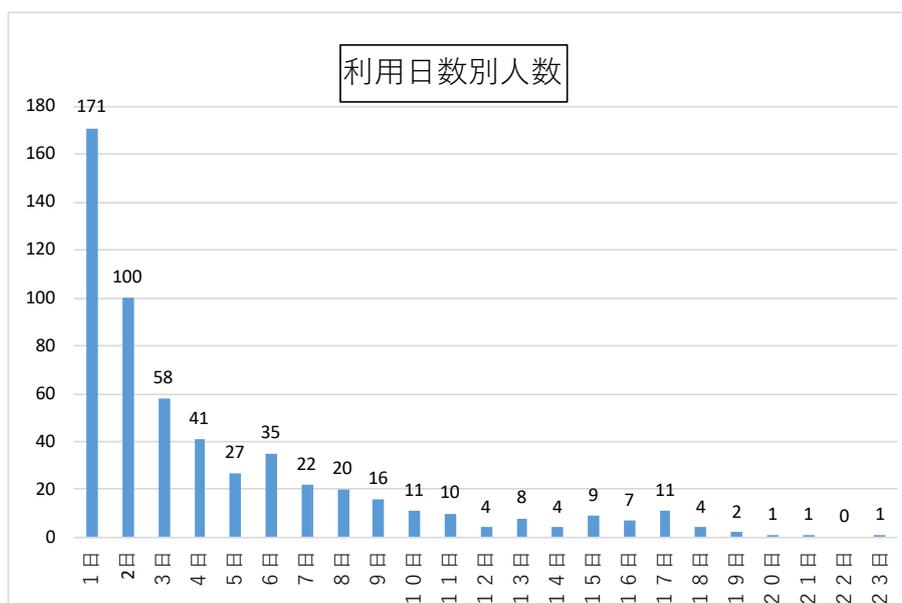
※総注文数 2,548 食 注文実日数 23 日

	留守家庭児童会室	放課後オープン スクエア	全体
平均参加人数 (C)	711 人	306 人	1,017 人
昼食サービス平均注文数 (D)	89 食	21 食	110 食
利用率(D)/(C)	12.5%	6.9%	10.8%

<日別食数> (単位：食)

7/24	7/25	7/26	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/5	8/6	8/7	8/8
134	130	156	78	120	139	110	156	103	136	100	108
8/9	8/13	8/14	8/15	8/16	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/26	
150	26	38	41	42	81	120	155	140	146	139	

(3) 利用日数別人数



6. アンケート調査結果

【1】対象者：試行実施校 11 校の総合型放課後事業利用児童及びその保護者

【2】実施期間：令和 6 年 9 月 9 日から令和 6 年 9 月 30 日まで

【3】実施方法：WEB アンケート

【4】回答者（児童）

調査対象：令和 6 年度夏季休業期に昼食サービスの試行実施を行った 11 小学校の
留守家庭児童会室入室児童（1,192 人）及び放課後オープンスクエア利用児童
（2,137 人）

回答者数：484 人

回答者（児童の保護者）

調査対象：令和 6 年度夏季休業期に昼食サービスの試行実施を行った 11 小学校の
留守家庭児童会室入室児童（1,192 人）及び放課後オープンスクエア利用児童（2,137
人）の保護者

回答者数：1,137 人

【5】アンケート内容のまとめ

（1）児童

- ・お弁当を食べていない児童からは、「お弁当を食べてみたい」、「おいしそう」という声が多くありました。
- ・お弁当を食べた児童への、「ご飯の量、おかずの量」についての質問では、「ちょうど良かった」と回答した割合が一番多くなっていますが、1 年生では「ご飯の量が多かった」と回答した割合が「ちょうど良かった」を上回っています。
- ・お弁当を食べた児童の感想としては、「美味しかった」と回答した件数が一番多いものの、「うちの人がつくったお弁当」を求める声が多いことが確認できました。

（2）保護者

- ・昼食サービス利用の感想として、「お弁当づくりの負担軽減になった」、「こどもが喜んでいた」、「保護者の都合でお弁当を作れない日も参加できた」などの声がある一方で、「お弁当の単価が高い」、「野菜が少ない」、「ヘルシー志向ではない」等、価格やメニューについて改善を求める声も多くありました。
- ・価格については、サービスの利用の有無にかかわらず「高い」と感じている保護者が多いものの、内容に対する価格設定は「妥当」と回答した割合が一番多くなっています。
- ・今回の試行事業と同内容での本格実施した場合の利用希望では、「必要な時に利用したい」と回答した割合が 79.4%と一番多くなっています。

7. 課題と今後の方向性

アンケートを通じて、児童からは今回のお弁当に対して、「美味しかった」、「食べてみたい」との声が多くありましたが、「家庭のお弁当が一番良い」との声が多く見受けられました。保護者からは、価格やメニューについて改善を求める声があるものの、多くの保護者が昼食の選択肢の一つとして、事業実施を望んでいることが確認できました。

試行実施期間の児童の出席状況においては、試行実施施設は昨年度よりも出席率が高かった結果が出ています。また、昼食サービス利用率は全体で 10.8%でしたが、事業者にはこの利用状況で事業の継続が可能と確認しています。今回の試行実施によって、これまで課題としていた注文の集計や集金を要することなく、昼食の選択肢が増えたことにより、保護者がお弁当を作る負担軽減が図られたと考えています。

今後は、アンケート結果を踏まえ、子どもたちに合った量やメニュー、価格設定の検討や全校での実施に向けた事業者の開拓などを進めるとともに、福祉的な観点も含めて検討していきます。